

基本情報		1号機		2号機		3号機		4号機		備考				
		炉型		BWR-3		BWR-4		BWR-4						
		電気出力／熱出力(MW)		460/1380		784/2381		784/2381						
		運転状態		運転中⇒自動停止		運転中⇒自動停止		運転中⇒自動停止		定検中				
被災状況時の	原子炉装荷燃料体数		400		548		548		0					
	使用済燃料プール内使用済燃料貯蔵数		292		587		514		1331					
	外部電源		地震により喪失											
	非常用電源		外部電源喪失とともに非常用ディーゼル発電機が自動起動したが、津波により停止し、全交流電源が喪失											
発電所の現状と対策、対応状況	原子炉冷却	現状	炉心燃料健全性		炉心損傷(溶融*1)		炉心損傷(溶融*1)		炉心損傷(溶融*1)		燃料なし			
			原子炉圧力容器構造健全性		限定的な損傷・漏えい		不明		不明		健全			
			原子炉格納容器構造健全性		損傷・漏洩の疑いあり		損傷・漏洩の疑いあり		損傷・漏洩の疑いあり		健全			
			炉心冷却機能		機能喪失		機能喪失		機能喪失		必要とせず			
		対策	STEP1(4～6月)目標		安定的な冷却(滞留水再利用による循環注水冷却)									
			最小限の注水による燃料冷却		給水系配管から淡水注入中 5.2m3/h[6/14 11:00]		給水系配管から淡水注入中 5.0m3/h[6/14 11:00]		給水系配管から淡水注入中 11.2～11.3m3/h[6/14 11:00]		—		1～3号機合計: 21.4～21.5m3／h[6/14 11:00]	
			循環注水冷却の確立		注入ライン工事中		注入ライン工事中[4/9～]		注入ライン工事中[4/16～]		—			
			窒素充填(水素爆発防止)		実施中(4/6～)		注入ライン工事中[4/16～]		注入ライン工事中[4/16～]		—			
			漏洩箇所の密閉後、格納容器冠水		検討中		検討中		検討中		—			
			熱交換機能の確保		工事中[5/13～]		熱交換器製作中 作業環境改善の後、工事着手予定		熱交換器製作中 作業環境改善の後、工事着手予定		—			
	課題	作業環境の改善		各号機建屋内の放射線レベルが高く、作業の障害となっていることから、瓦礫撤去、線量確認等を実施中。2号機では原子炉建屋内の湿度が高いことから、6/11に建屋の二重扉を開放し、同建屋内の空気をフィルタ付局所排風機により循環させて作業環境改善作業を開始。									—	
	プー使用済燃料冷却	現状	使用済燃料の健全性		不明		不明		不明		大きな損傷なしと推定*2			
			使用済燃料プールの冷却機能		機能喪失		機能喪失		機能喪失		機能喪失			
		対策	STEP1(4～6月)目標		安定的に冷却できる状態にする									
			注水操作の信頼性向上		燃料プール冷却浄化系を用いた 淡水注入実施中		燃料プール冷却浄化系を用いた 淡水注入から循環運転へ切り替え		燃料プール冷却浄化系を用いた 淡水注入実施中		ポンプ車にて淡水放水実施中 より安定的な冷却システム構築に向け 準備中		ヒドラジン(腐食防止剤)を併せて 注入[5/9～]	
			熱交換器による循環冷却		検討中		運転中[5/31-]		検討中		検討中			
	滞留水	現状	放射性汚染水の滞留、増加		各号機の原子炉、タービン、廃棄物処理建屋、トレンチ内に、高濃度の放射性物質を含む汚染水が滞留、増加中（約92,000m3[5/31]）									
			STEP1(4～6月)目標		高レベル汚染水の保管場所を確保									
			保管場所の確保		・集中廃棄物処理建屋(プロセス主建屋(移送予定量:約10,000m3)及び雑固体廃棄物減容処理建屋(移送予定量:約4,800m3))内の止水確認。 ・地下防災タンク(高レベル用:約10,000m3)を8月中旬に設置予定。 ・放射能処理した水(中低レベル放射性汚染水)貯蔵用タンク設置 約13,000m3[～5/31]、6月末以降20,000m3/月を順次設置予定									
汚染水の移送			・2号機高レベル放射性汚染水:トレンチ立坑⇒プロセス主建屋(4/19～5/26 約9,600m3)、移送を一旦中断し、建屋貯水レベル変更後再開[6/4～] ・3号機高レベル放射性汚染水:タービン建屋⇒雑固体廃棄物減容処理建屋(5/17～5/25 約3,700m3)。タービン建屋⇒3号機復水器移送実施[6/5～6/9]。タービン建屋⇒プロセス主建屋(6/11～再開)											
処理施設の設置			・放射能処理装置設置工事中。6月17日処理開始を目処に6月14日から試運転開始。(定格:1,200m3/日)。 ・放射能処理した水を淡水化处理(6月中旬以降:480m3/日。その後、順次増量予定。)し、原子炉注水に再利用する予定。											
海洋汚染拡大防止など			・取水槽にシルトフェンス設置済み。・循環型海水浄化装置本格稼働開始[6/13] ・タービントレンチ立坑閉鎖完了[6/2]。ピット閉塞作業完了[6/10]											
課題		高レベル汚染水の溢水防止		・2、3号機タービン建屋、トレンチ内の高レベル汚染水が増加し漏えいリスクが高まっているが、移送先の貯蔵容量逼迫や漏えいにより移送を中断。2、3号機復水器を新たな移送先とともにプロセス主建屋の貯水レベルを変更し、移送先を確保(計約4,300m3)。プロセス主建屋貯水レベルの更なる変更を検討中(追加移送可能量約2,700m3)。										
		STEP1(4～6月)目標		低レベル汚染水を保管・処理										
対策		保管容量拡充		・タンク2,200トン設置済み。6月上旬までに更に約1万6千トン分設置予定。その他、5月下旬から6月下旬にメガフロート、バージ船で計約1万2千トン確保。										
		地下水	現状	地下水中の放射性物質		各号機、施設のサブドレン(施設内で集水、管理された地下水)、構内深井戸から放射性物質(ヨウ素131、セシウム134、137、ストロンチウム89、90)を検出(4/7～)。								
STEP1(4～6月)目標				海洋への汚染拡大の防止										
地下水の汚染拡大の防止策				サブドレンポンプの復旧[6月中旬]、保管／処理施設拡充計画にあわせてサブドレン管理等を計画。										
物質の抑制	現状	施設外への放射性物質の放散		原子炉建屋水素爆発(1、3号機)等により、放射性物質及び放射性物質に汚染された瓦礫等が飛散。									発電所敷地内サーベイマップ: http://www.tepco.co.jp/nu/fukushim a-np/f1/index3-j.html	
		原子炉建屋健全性		大きく損傷		一部開放		大きく損傷		大きく損傷				
	対策	STEP1(4～6月)目標		建屋／敷地にある放射性物質の飛散を防止										
		飛散防止剤の散布		建屋周辺に散布中[4/26から本格散布]。原子炉及びタービン建屋本体に散布開始[5/27～]。										
		瓦礫の撤去		遠隔操作重機を用いた瓦礫撤去を実施中[4/10～]										
		原子炉建屋カバーの設置		準備工事開始[5/13～] 6/27本体工事開始予定		—		設計中		検討中				
津波・補強ほか	対策	STEP1(4～6月)目標		災害の拡大防止										
		津波対策		・高台に非常用仮設電源移動[4/15]、注水ラインの多重化[～4/15]、高台に消防車等設置[～4/18] ・仮設防潮堤の設置計画中[6月末目途]										
		各号機補強工事の検討／実施		4号機プール底部を支える支持構造物の設置準備工事実施[5/9～6/6]、鋼性支柱材搬入・組み立て開始[6/7～] 各号機の耐震性評価実施中。1、4号機については十分に耐震安全性を有することを確認[5/28]。										
		多様な放射線遮蔽対策		準備(配管工事、ポンプ車配備)完了[5/17]										
プラントパラメータ等	原子炉	原子炉水位(mm)[6/14 11:00]		A:ダウンスケール、B:-1700 指示ほぼ一定		A:-1500、B:-2100 指示ほぼ一定		A:-1850、B:-2250 指示ほぼ一定		—		■”A”、”B”は、多重化された計器の系統を表す。 ■原子炉水位は、燃料頂部から左記水位が冠水していない。 ■トレンドは、日本原子力技術協会HPを参照: http://www.gengikyo.jp/report/pdf/1Fparameter.pdf		
		原子炉圧力(MPa)[6/14 11:00]		A:0.027、B:- 仮設計器設置、測定開始[6/4]		A:-0.011、B:-0.002 ほぼ一定、状況推移を継続確認中		A:-0.134、B:-0.100 ほぼ一定、状況推移を継続確認中		—				
		原子炉圧力容器温度(給水ノズル温度)(℃)[6/14 11:00]		112.2 ほぼ一定、状況推移を続確認中		108.1 ほぼ一定		107.7 増加傾向終息、状況推移継続確認中		—				
		原子炉圧力容器温度(圧力容器下部温度)(℃)[6/14 11:00]		97.0 ほぼ一定		106.1 計器不良		160.8 増加傾向終息		—				
	格納容器	格納容器ドライウェル圧力(MPa)[6/14 11:00]		0.1323 ほぼ一定		0.015 低下傾向、状況推移を続確認中		0.1001 ほぼ一定		—				
		格納容器内圧力抑制室圧力(MPa)[6/14 11:00]		0.115 ほぼ一定		ダウンスケール 計器不良		0.1843 ほぼ一定		—				
	プール		使用済燃料プール水温		計器不良		32℃ [6/14 11:00]		62℃ (5/8)		85-86℃ (6/13 21:02)			
	滞留水	原子炉建屋地下滞留水	量*3	3,900m3[5/31]		6,000m3[5/31]		6,400m3[5/31]		6,500m3[5/31]				
			放射性物質濃度*3	4.0E+5Bq/cm3		1.9E+7Bq/cm3		3.8E+5Bq/cm3		2.0E+5Bq/cm3				
		タービン建屋地下滞留水	量*3	8,400m3[5/31]		11,400m3[5/31]		13,600m3[5/31]		11,800m3[5/31]				
			放射性物質濃度*3 (水表面線量率)	4.0E+5Bq/cm3 (60mSv/h[4/28])		1.9E+7Bq/cm3 (1,000mSv/h以上[3/28])		3.8E+5Bq/cm3 (120～750mSv/h[3/24,4/22])		2.0E+5Bq/cm3 (4.5mSv/h[4/21])				
		廃棄物処理建屋地下滞留水	量*3	1,100m3[5/31]		2,400m3[5/31]		2,300m3[5/31]		3,700m3[5/31]				
			放射性物質濃度*3	4.0E+5Bq/cm3		1.9E+7Bq/cm3		3.8E+5Bq/cm3		2.0E+5Bq/cm3				
		トレンチ滞留水	量*3	2,800m3[5/31]		4,800m3[5/31]		5,800m3[5/31]		900m3[5/31]				
			放射性物質濃度*3 (水表面線量率)	6.9Bq/cm3 (0.4mSv/h[3/27])		1.1E+7Bq/cm3 (1,000mSv/h以上[3/27])		2.4E+5Bq/cm3		2.0E+5Bq/cm3				
		合計水量		91,800m3(集中廃棄物処理建屋の滞留水を含めると約105,000m3)										
	発電所付近の環境影響			●空間線量率:敷地境界にて5～121μSv/h(モニタリングポスト) 事務本館南:363μSv/h 西門:14μSv/h [いずれも6/15 09:00現在] ●これまでに発電所敷地内の土壌から、微量のプルトニウム[3/28発表]、アメリカシウム、キュリウム[4/27発表]、ストロンチウム[4/18採取、5/8発表]を検出。 ●福島第一原子力発電所周辺の地下水及び海水から放射性物質が検出され続けており、監視強化中[4/16～]。発電所取水口付近の海水から国の基準値を超えるストロンチウム89、90を検出[5/16試料採取]									空間線量率: http://www.tepco.co.jp/nu/fukushim hima-np/f1/index-j.html 空気、海水、地下水、土壌ほか: http://www.tepco.co.jp/nu/fukushim hima-np/f1/index2-j.html	
	作業員被ばく状況			●東電は、3月中に作業を行った3726名について被曝状況調査中。6月13日現在、2367名についての暫定調査を終え、結果を国に報告。102名が100mSvを超え被ばくしたことが判明。(100～200mSv:88名、200～250mSv:6名、250mSv～:8名)。この内、最も高い2名の被ばく線量は、643mSv、678mSv。 ※原子力緊急事態の期間中、緊急事態応急対策実施区域において、特にやむを得ない緊急の場合の線量限度を250mSvと規定。										